

の単純化した物で購読性のあるのもをと思いき、
本稿は先づ材料の特性を生かした、応接セットを設計した。

3. 成 果

各々その目的に合った物の設計を行なったが、前記、1・1の業者の場合、家具展出品または県外移出用の物等好評は得ているが、補強用金具、飾金具の利用等で今一步の問題がある。1・2の場合も同様の事が言える。

1・3の場合もデザインそのものより、製品そのもの、材料のつかい分け、加工上でのミス等の問題があるように思われる。1・4の場合さして問題はないが、1・5の家具用としての未利用材の場合、前記のことをわきまえて設計製作するなら、家具用材として高価な外材になら劣る物ではないと思う。今回設議した前記応接セットも、塗装、張り布地等によっては、高級品として十分扱い得る。

(別図省略)

デザイン研究

木材の装飾性について (1)

— カップボードの設計 —

研究員 楠 畑 裕 也

1. 目 的

木材は合成樹脂材や軽金属材などに比較して、不均質で不安定な材料性のために、消極的な工業用材といわれている。けれども木材はその加工性のよさと共に、材質の視覚的なあたたかさ、やわらかさ、ほどよい重量感や木目もようのかぎりない変化から生じる独特の味わいをもっている。木材特有のこのような性格を、素材の含む基本的な装飾性として解し、このことを追求することによって本当に木を生かし木材ならではの生生活用具を開発できるであろう。そのために木材を次の三つの視点即ち (1)装飾性と機能性 (2)加飾と形態 (3)純粹装飾というかたとらえて検討して形にむすびつけ、製品の設計と試作をすることがこの研究の主眼である。

2. 概 要

目的にそって今年度はカップボードをとりあげ、取手の機能と装飾効果、棚の枠椽面の加飾に重点をおいて設計した。

1. 品 名 ユニット式カップボード
2. 試作者 株式会社山形屋工作所
3. 材 料 しおじ材

3. 考察と成果

木材の材質のすぐれた点をひきだすことをデザインのポイントとした。機械加工による幾何学的な面と線から生じる形は、木材の素材感とあいまって、作品をいくぶん立体的にし直線と球の構成をやわらかくみせた。それが造形性からくるのか素材から受けるのかわからない。来年度は機械加工だけでなく手加工の面からも木材の装飾効果を求めてみたい

なおこの作品は山形屋工作所のオリジナル製

品として生産にかかる予定である。

〔デザイン研究 2 編〕

I. 収納用具のデザイン研究 (シリーズNo.1)

II. 木製特産品の意匠研究と実用化

研究員 田原健次

●収納用具のデザイン研究

1. 目的

- 機能性を主体とするコーナー壁面用具の開発。
- 資材の効率的利用と、これに伴う簡易構造体の研究

2. 概要

本体は実験的デザイン研究試作品であり本来の一般的研究様式とされる製品化に重点を置いた開発要領によるものではない。

基本的なこととして、異った角度からのデザイン思考（既成概念にとらわれない新しい構造体など）と、対業界用の示唆的な指導作品という2点に主力を置き開発に取り組んだものである。

○研究過程

機能的には、コーナーにおいて必要とする左右2面での使用とその展開性にポイントを置き、亘つ、資材の効率的利用も、考慮した

ものである。作品の性質上、軽便用具としての機能性を持つため、この面の構造体の更設計を含めて併考開発したものである。

3. 考察及び成果

実験的試作品のため通常試作品と同列に評価は出来ないと思うが、デザイン研究開発の側面として、この種作業の必要性は大きく、又、公的機関では今後益々求められる方向だと考える。

展示会及び通常展示を通じて、多種の意見に接すると、特に業界からの反響には、所期の目的とした諸件に合致したものが多く今後に一層の必要性が認知されたと思うので、来年度には、これをベースに、もっと気軽に住空間を利用出来るような具体的作品としてシリーズ研究に目処をつけたい。

●木製特産品の意匠研究と実用化

1. 目的

下記5項目の目的を条件に企業ベースで実用化に取り組んだものである。

- 地場企業の技術レベルによる新商品化。
- 良心的商品開発。
- 県内産材の活用（屋久杉等）